

## まえがき

▽歴史研究、特に水戸史学・水戸学に関わる問題の研究に興味を持ちはじめたのは、昭和三十一年四月に県立水戸一高に入学し、同校の部活「史学会」に入会して、顧問の名越時正先生のご指導を頂くようになった頃からであるから、数えてみればかれこれ五十年になる。

▽高校卒業後、茨城大学文理学部文学科に進学して史学を専攻することになり、在学四年間は宮田俊彦教授からご指導頂いたが、四年次を迎え、卒論のテーマを決める必要に迫られた時、師匠である名越先生が、東京大学卒業にあたって藤田東湖先生の研究を選ばれ、後に水戸義公（徳川光圀）の研究へと発展して行かれたと伺ったので、弟子の私は、光圀公のお側に仕えた家来の助さんさつ佐々介三郎宗淳さつさけさぶろうむねきよの研究をしてみようということになり、『佐々宗淳の伝記的研究』というテーマを設定し、何とか研究をまとめて卒論として提出することができた。

▽大学卒業後、三十八年間私立・県立高校教諭を勤め、定年退職後に現在の植草学園短期大学に勤務することになったわけであるが、その間も遅々とした歩みではあるが水戸史学等の研究を続けてきた。

▽昭和四十九年には、名越先生の肝煎りで水戸史学会が発足し、機関誌『水戸史学』が発刊されたことから、同誌を中心に論文・論説等を寄稿し、また十数冊の著書及び共著共編の書を世に問うてきたが、筆者の場合、どち

らかというところと一般読者向けに、歴史研究に興味関心をもって欲しいと念じつつ、水戸史学・水戸学に関する各種の書物を執筆刊行してきた。

▽そこで、今回上梓する本書には、形の上だけでも、学術研究書としての性格を持たせようと思い、著者の収載可能な対象論文を選定してみたところ、意外にその数の少ないことに驚きを感じるとともに、改めて不勉強ぶりが露呈された思いで、深く恥じ入っている次第である。しかし、『水戸史学』その他の雑誌等に掲載されたままの状態では、興味ある方々にとつても披閱が不便ひえんであると思われるので、数少ない論考・論説ではあるが、あえて一冊にまとめて刊行することにした。

▽本書は『水戸史学の各論的研究』と題し、「上編」は大日本史に関する論考を五編、「中編」は、他の問題解明に関わる論考を四編、「下編」は「史遊余滴」として、義公光圀をめぐつての卑近な話題や疑問点について論説した六編を、それぞれ収載することにした。

▽なお、本書の原稿を作成している最中の昨年十月十一日に、恩師の水戸史学会会長名越時正先生が突然帰幽（九十歳）されるといふ、哀惜極まりない事態に遭遇した。五十年間の言葉に尽くし難い懇切なるご指導に感謝申し上げ、本書完成の暁には、先生に呈上して一瞥なりともお願いしたいと思っていたのであるが、それも叶わず幽明境を異にする結果となってしまった。

故名越時正先生の神霊の御前に、本書を奉奠させて頂き、御冥福をお祈り申し上げたい。

平成十八年（二〇〇六）六月二十日

著者 但野正弘 するす